

平成 27 年度 施策評価シート

基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	2. 「二宮ブランド」の開発と活性化
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のブランド商品のブランドとしてのレベルアップや販路開拓を行うだけでなく、新たな農業特産物を活用した新商品の開発や、町民や各種団体・各グループの取組も二宮ブランドへ融合、発信していくことにより、商品力の向上を図るとともに、農林漁業の振興に努めます。 ・他のまちづくり施策と一体になって「生活の質」や町の風景・文化そのもののブランド化を進め、地域経済の活性化を図ります。

基本計画(分野別方針) 事業名	実施計画 事業数	総合評価
(1) 農林業振興の推進	1	B
(2) 水産振興の推進	1	B
(3) 漁業基盤の整備・維持管理の推進	1	B
(4) 地域資源を活かした効果的な農地の保全	1	B
(5) 特産品の普及と二宮ブランドとの連携	1	B
(6) 魅力ある二宮ブランドづくりの推進	1	B
(7) 農・海・里山のあるまちづくり	1	B
課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・二宮町の名前や位置、町の特色があまり知られていないため、関連部署や関係団体における役割分担を明確にし、事業展開を進め、二宮ブランドや町の知名度を上げるPRを行う必要がある。 ・農業や漁業等の就業者の高齢化、担い手不足が深刻化しているため、産業活性化に向けた制度の見直しが必要となる。 	

総合評価	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き施策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 施策を推進するためには、事業を改善する必要がある D: 施策全体を見直す必要がある</p>	B
説明	<p>・県外における二宮町の知名度はまだまだ低いこともあり、商品開発に特化している二宮ブランドを見直す必要があり、普及させるためのPR活動を関連部署と連携強化し、中小企業者や農林漁業者などの地場産業と町民が連携しながら、町の魅力づくりを進める必要がある。</p>	
方向性	<p>・二宮ブランドの位置づけ・考え方については再検証し、県外向けに二宮町の特色と二宮産のブランド商品をアピールする広報戦略を構築し、これまでにない形でタウン・セールスを展開していく。あわせて町民が二宮産ブランド商品の消費者となるよう積極的に情報発信していく。</p>	

◎最終評価者[庁内評価委員会]		
	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き施策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 施策を推進するためには、事業を改善する必要がある D: 施策全体を見直す必要がある</p>	B
意見等	<p>二宮町の知名度がまだ低い状況であるため、PR活動と二宮ブランドのブラッシュアップに努めていく必要がある。</p>	

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	産業振興課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(1)農林業振興の推進
実施計画事業	農業振興事業(No.51)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	農業振興事業	81.9%	B
02	農業委員会運営経費	99.6%	A
03	農業者年金事業	57.1%	A
04	畜産推進事業	64.7%	B
05	有害鳥獣対策事業	64.1%	B
06	土地改良事業	67.7%	B
課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の発掘、育成、支援 ・畜産規模及び経営体減少に伴う事業の見直し ・有害鳥獣被害に対する支援策 		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	農業者の高齢化がさらに進んでおり、支援育成が必要である。 また、有機栽培を主体とした、新規就農者が少数であるが徐々に定着し始めている。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	原則として、継続して推進する。 畜産業は、従事者の減少に歯止めがかからないため、今後の事業を含めた組織体制などについても検討が必要である。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	畜産推進、就農者や有害鳥獣被害等に対する各種支援策は、農業全般の振興を図るうえで、事業継続は必要である。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(1)農林業振興の推進		実施計画事業	農業振興事業(No.51)
予算等事業名	農業振興事業			
目的	農用地の有効利用と中核農家の育成、各種生産団体及び協議会等の支援育成、又当町の農林産物を町民に周知し農林業の振興を図る。			
内容	農用地の有効利用と中核農家の育成、各種生産団体及び協議会等の支援育成、又当町の農林産物を町民に周知し農林業の振興を図る。			
根拠法令・条例等	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南地域農業再生協議会規約 ・二宮町農林水産まつり実行委員会規約 ・神奈川県環境保全型農業直接対策支援事業要綱 ・農業金融制度資金利子補給要綱 ・二宮町園芸協会規約 			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/> ② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施	
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 削減は困難		
理由	現状、精査を繰り返して来ている中での計画であるため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/> ① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 効率化は困難		
理由	現状、効率化を繰り返して来ている中での計画であるため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 引き続き、新たな担い手の確保や団体支援に努めていく		

総合評価

実績	関係団体、協議会等に対して助成するとともに、品評会等の開催により意欲向上を図った		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	認定農業者数		
前期(27年度)目標値	21人		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】 平塚・大磯・二宮の1市2町で構成される「担い手協議会」にて各市町の動向を調整しながら認定農業者数の目標を設定しており、二宮町は毎年度1名の増を目標としている。
実績値	平成25年度 20人	平成26年度 20人	
	平成27年度		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,850	1,787	7,824	6,405		
財源内訳	一般財源	1,850	1,301	4,338	2,919		
	国庫支出金						
	県支出金		486	3,486	3,486		
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 町の農業振興のため農業者及び団体、協議会等の支援を行う。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 町の農業振興のため今後も行政主体で事業を行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 高齢化、後継者不足、耕作放棄地など全国的な課題は同様であるが、改善に向けての取り組みが成されている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	B
	【説明】 国、県の補助の活用とともに、補助金の精査、活用の指導に努めている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 全国的な課題として、農業の衰退に歯止めを掛けるのは困難だが、国や県の事業活用および連携により、引き続き事業継続が必要である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の発掘、育成、支援 ・認定農業者、環境保全型農業直接対策支援対象者の増加 	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	農業従事者の高齢化が進んでおり、支援育成が必要である。		
今後の方向性	新規就農者の育成・支援を強化する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(1)農林業振興の推進		実施計画事業	農業振興事業(No.51)
予算等事業名	農業委員会運営経費			
目的	農用地の有効利用と中核農家の育成、各種生産団体及び協議会等の支援育成、又当町の農林産物を町民に周知し農林業の振興を図る。			
内容	農業に関する資料、情報の収集及び許可申請等の事務処理など農業委員会の運営にあたる			
根拠法令・条例等	農業委員会等に関する法律			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		現状、精査を繰り返して来た中での計画であるため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		現状、効率化を繰り返して来た中での計画であるため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 引き続き、農業委員会の効率の良い運営に努めて行く			

総合評価

実績	毎月1回、合計12回開催し、農業に関する資料、情報の収集および許可申請等の事務処理を行った。			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	総会開催回数			
前期(27年度)目標値	12回			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
	単位:			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	毎月定例開催のため
	12回	13回(委員改選のため)		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,293	3,251	4,590	4,570		
財源内訳	一般財源	2,745	3,164	3,274	3,241		
	国庫支出金						
	県支出金	476		1,240	1,223		
	その他	72	87	76	106		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 法定事務のため	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 法定事務のため	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 目標値どおりの開催がなされ、許認可等の審議を行っている	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 他市町村に比べ委員報酬を低く設定する等、経費節減を図っている	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 目標値は達成されており、また効率性も適切であるため現状維持	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	農業者の減による委員定数の確保	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	農地の保全、適切な管理を推進するため、農業委員会の設置が必要である。		
今後の方向性	引き続き推進する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(1)農林業振興の推進		実施計画事業	農業振興事業(No.51)
予算等事業名	農業者年金事業			
目的	農用地の有効利用と中核農家の育成、各種生産団体及び協議会等の支援育成、又当町の農林産物を町民に周知し農林業の振興を図る。			
内容	農業経営者の農業者年金への加入促進をすることにより老後の生活安定を図る			
根拠法令・条例等	農業者年金業務委託契約			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		現状、精査を繰り返して来ている中での計画であるため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		現状、効率化を繰り返して来た中での計画であるため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 引き続き、農業者年金への加入促進に努めて行く			

総合評価

実績	年金加入対象者名簿の登載者に対して、勧誘活動を行っているが、新規加入者獲得には至っていない			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	新規加入者数			
前期(27年度)目標値	1人			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
単位:				
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	加入推進活動計画において設定
	1人	1人		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		38	33	28	16		
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	38	33	28	16		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	B
	【説明】 農業者の老後の生活の安定のための制度であるため、町が加入促進を行うことは妥当と思われる	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 対象者が農業者個人となるため、農業者に近い町が行ったほうが効率的であると思われる	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 加入者獲得には至っていないが、制度の周知は進んでいるので、一定の成果は上がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 業務委託契約に基づき、手数料が支払われているため、費用負担は発生していない	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 町内農業者のための制度であり、費用的にも負担は発生していないので、現状維持	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	加入対象者の減少	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	委託事業であり、費用面について、特段の町の負担もなく、現状維持。		
今後の方向性	引き続き推進する。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(1)農林業振興の推進		実施計画事業	農業振興事業(No.51)
予算等事業名	畜産推進事業			
目的	農用地の有効利用と中核農家の育成、各種生産団体及び協議会等の支援育成、又当町の農林産物を町民に周知し農林業の振興を図る。			
内容	畜産経営を維持強化するため、関係団体の育成及び補助事業等を実施する。			
根拠法令・条例等	二宮町畜産会規約			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		畜産家の減少にあわせて、削減を検討する。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		畜産家の減少にあわせて、他団体との統合を検討する。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 引き続き、畜産事業の維持、支援に努めて行く			

総合評価

実績	害虫駆除及び畜舎環境防除薬剤の配布、家畜浄化槽及び糞処理施設の共励会 畜産共励会(乳牛品評会)、農林水産まつり家畜苑			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	経営体数			
前期(27年度)目標値	4件			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】 町内の畜産農家は4経営体となり、県内を見ても高齢化や後継者不足から現状維持が精いっぱい状況である。
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	6件	4件		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		501	423	436	282		
財源内訳	一般財源	501	423	436	282		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	B
	【説明】 畜産経営が適切に行われるため、環境衛生等に関わる公費支援は必要。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 畜産経営が適切に行われるため、環境衛生等に関わる事業は町主体となる必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 町内畜産経営体の環境配慮及び、防除衛生状況は適正だと評価されている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	B
	【説明】 経営体の減少にともない、現状の見直しが必要。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 畜産業の現状維持のため、今後も支援が必要である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産環境保全及び畜舎等衛生管理における防除の徹底。 ・規模及び経営体減少に伴う事業の見直し。 	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	依然として畜産の運営農家は減少の一途をたどっているが病虫害駆除、衛生管理について助成していく必要がある。
今後の方向性	事業規模を縮小していく。

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2. 「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(1) 農林業振興の推進		実施計画事業	農業振興事業 (No.51)
予算等事業名	有害鳥獣対策事業			
目的	農用地の有効利用と中核農家の育成、各種生産団体及び協議会等の支援育成、又当町の農林産物を町民に周知し農林業の振興を図る。			
内容	有害鳥獣による農産物被害拡大の防止のため、捕獲器の貸出を実施する。			
根拠法令・条例等	二宮町有害鳥獣対策協議会規約・二宮町農作物鳥獣被害対策補助金要綱			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		有害鳥獣被害の拡大は広がる一方であり対策の必要性が高まっているため		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		国や県の支援の有効活用、現状に併せて団体との協力方法の運用を見直すなどの余地がある		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			B
	【説明】 拡大の一途をたどる有害鳥獣被害の抑制を目指し、事業推進に努めて行く			

総合評価

実績	町補助金を活用した、農業者自身による鳥獣被害に対する防除の徹底によって、被害が減少している。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	補助金申請件数			
前期(27年度)目標値	15件(年度)			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
単位:				
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	近年の申請実績値より
	13件	7件		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		833	668	555	356		
財源内訳	一般財源	833	668	405	304		
	国庫支出金						
	県支出金			150	52		
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	B
	【説明】 鳥獣被害に対する防除は、農業者による自主防除が原則とは言え、農作物被害の増加が農業者の減少へ繋がるため地域農業を推進していく上で、行政によるサポートが必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 鳥獣被害に対する防除は、農業者による自主防除が原則とは言え、農作物被害の増加が農業者の減少へ繋がるため地域農業を推進していく上で、行政によるサポートが必要である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 JA湘南と連携し、農業者へ啓発を図ることで、自主防除の意識を高めている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 JA湘南と連携し、農業者へ啓発を図ることで、自主防除の意識を高めている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 農業者による自主防除の意識向上および、農作物被害軽減のため、継続的に事業を実施する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	JA湘南との連携により、農業者への自主防除の啓発を図ることで、農業者による自主防除の意識向上及び被害軽減のため、継続的に事業を実施する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	農業者からの被害報告を徹底し、共通の認識を持つことによって、鳥獣被害防止策を講じていく。
今後の方向性	引き続き推進する。

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2. 「二宮ブランド」の開発と活性化				
分野別方針	(1) 農林業振興の推進		実施計画事業	農業振興事業 (No.51)				
予算等事業名	土地改良事業							
目的	農用地の有効利用と中核農家の育成、各種生産団体及び協議会等の支援育成、又当町の農林産物を町民に周知し農林業の振興を図る。							
内容	農道の整備及び維持管理を行う。							
根拠法令・条例等	土地改良法 神奈川県土地改良事業等補助金交付要綱							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由		新たな農道整備は休止している状態にある						

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		現状維持、補修が精いっぱい状況である						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		現在でも一部、職員作業や道普請で実施するなど効率化を図っている						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 優先順位を考慮し、効率の良い事業推進に努めて行く							

総合評価

実績	農道の修繕を行い維持管理に努めた						
中間評価との相違点							
事業指標(数値指標)	—						
前期(27年度)目標値	—			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
単位:							
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	町の土地改良施設は農道のみであり(水理施設等無し)、農業者数が減少している昨今、維持管理のみ実施している状況である。			
	—	—					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		7,075	7,064	4,603	3,116		
財源内訳	一般財源	7,075	7,064	4,603	3,116		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	B
	【説明】 土地改良施設については、管理者が町であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 土地改良施設については、管理者が町であるため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 土地改良施設の適正な管理の側面から一定の成果を上げている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	B
	【説明】 農業者が適正かつ効率的に、農地の管理を行うため、行政による土地改良施設の管理が必要である。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 農業者が適正かつ効率的に、農地の管理を行うため、行政による土地改良施設の適切な管理が必要である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	農業者が適正かつ効率的に、農地の管理を行うため、行政による土地改良施設の適切な管理が必要である。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	農業生産の効率化を保つため、現状規模で進める。
今後の方向性	老朽化が激しい道路については、中長期的な計画により、財源を確保し、事業展開していく。

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	産業振興課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(2)水産振興の推進
実施計画事業	水産振興事業(No.52)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	水産振興事業(漁業再生事業)	99.9%	B
02			
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	・漁業者の高齢化、担い手不足など、後継者不足が懸念される		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	平成25年度からヒラメ、マダイの稚魚を放流して、育てる漁業を推進している。 このことで安定的な水産資源の確保が見込まれる。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	育てる漁業は、3年間継続するものの、将来的には事業主体を漁業組合へ移行していく予定。 また、大磯町漁業協同組合との合併について協議が始まったところであり、運営体制の検討を行っている。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	水産資源を維持・増大させる施策は、水産振興を図るうえで、事業継続する必要がある。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(2)水産振興の推進		実施計画事業	水産振興事業(No.52)
予算等事業名	水産振興事業(漁業再生事業)			
目的	二宮町の水産業の振興を図る。			
内容	二宮町の水産業の振興を図る。			
根拠法令・条例等	—			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		「海の朝市」への補助については、自立が可能なので終了を検討する		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		現状でも、必要最小限の取組であるため		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 引き続き、水産振興のため、効率の良い事業推進に努めて行く			

総合評価

実績	水産関係団体、協議会および、水難救済会などに対し助成するとともに、将来的な漁獲高向上のため種苗放流を実施した。(サザエ、ヒラメ、マダイ各5000匹)			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	漁業従事者数			
前期(27年度)目標値	24人(正組合員)		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	高齢化にともなう漁業者の減少および、後継者不足は深刻であり現状維持程度が妥当である。
	24	23人		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,426	1,368	1,334	1,333		
財源内訳	一般財源	1,426	1,368	1,334	1,333		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	B
	【説明】 町の水産業振興のため、団体、協議会等の支援を行う。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 町の水産業振興のため、団体、協議会等の支援を行う。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 水産関係団体および、水難救済会など相模湾の関係団体と連携し取り組んでいる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 負担金、補助金の見直しを実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 町の水産業の状況を鑑みながら引き続き実施していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	漁業者の高齢化、担い手不足の状況を鑑みつつ、費用対効果を念頭に置き実施取り組んでいく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ②改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④廃止
理由	育てる漁業の推進によって、水産資源の安定的な確保を図るため継続する。		
今後の方向性	漁業団体が主体的に事業を推進するよう促していく。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	産業振興課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(3)漁業基盤の整備・維持管理の推進
実施計画事業	漁港整備事業(No.53)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	漁港整備事業	97.9%	B
02			
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	・継続的に養浜工事を実施する		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	説明	漁港区域内に基準点の設置及び現況測量を実施し、現況図を作成した。 このことにより、漁港区域土地利用計画の策定に向けた準備が整った。

方向性			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	平成26年度から国が主体となって行う西湘海岸の直轄海岸保全整備事業が開始し、その事業のスケジュール、事業内容が平成28年度以降に示される。 それまでの間は、維持管理を継続していく。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	漁港区域内整備事業は、漁港利用者及び海岸保全を図るうえで、事業継続する必要がある。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(3) 漁業基盤の整備・維持管理の推進		実施計画事業	漁港整備事業 (No.53)
予算等事業名	漁港整備事業			
目的	漁港の整備及び維持管理を行う事で環境を保持し美化に努める。			
内容	漁港の整備及び維持管理を行う事で環境を保持し美化に努める。			
根拠法令・条例等	漁港漁場整備法、海岸法、二宮町漁港管理条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		新たに、台風後等における海岸漂着物の除去費用が必要となるため		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		現状でも、維持管理等、必要最小限の取組であるため		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 直轄化事業との調整を図りながら、より効率の良い事業推進に努めていく。			

総合評価

実績	漁港維持管理のための修繕、看板設置等の実施。漁港海岸保全のための養浜工事。漁港区域内整備のための不要物の撤去。人工リーフ設置効果確認のためモニタリングを実施。			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	漁業従事者数			
前期(27年度)目標値	24人(正組合員)		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	高齢化にともなう漁業者の減少および、後継者不足は深刻であり現状維持程度が妥当である。
	24人	23人		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		15,653	15,541	8,775	8,593		
財源内訳	一般財源	15,595	15,482	8,717	8,535		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	58	59	58	58		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 二宮町が漁港管理者であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 二宮町が漁港管理者であるため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 陸域部の整備に向け徐々にではあるが進捗しているため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 必要最小限を見極め、実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 町の水産業の状況を見極めながら、漁港機能維持のため引き続き実施していく。また、陸域部の整備については観光振興の視点も含めて検討を進めて行く。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	将来構想に対しては、国の直轄化事業の方針も見定めながら、費用対効果を念頭におき、高波対策と背後地の整備を進めていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	平成26年度から西湘海岸の直轄海岸保全整備事業が開始し、その事業内容、スケジュールが明確になるまでの間、維持管理を継続していく。		
今後の方向性	西湘海岸の直轄海岸保全整備事業を踏まえた、今後の二宮漁港区域内の整備を検討していく。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	産業振興課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(4) 地域資源を活かした効果的な農地の保全
実施計画事業	遊休・荒廃地対策事業(No.54)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	遊休・荒廃農地対策事業	29.4%	A
02			
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	・遊休・荒廃地の調査は、町内全域を対象としており、単年度で完了できない		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	遊休・荒廃地を解消するために、町補助金を活用して実施している。 農地の管理が行き届いていないものを適正な状態にもどすためには、長期間時間をかけて推進する必要がある。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	今後も遊休荒廃農地の解消に向け、引き続き事業を継続していく。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	遊休荒廃農地の解消は農業再生の基盤であり、農地保全の観点から、事業継続は必要である。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化	
分野別方針	(4) 地域資源を活かした効果的な農地の保全		実施計画事業	遊休・荒廃地対策事業 (No.54)	
予算等事業名	遊休・荒廃農地対策事業				
目的	農地の荒廃地化の防止と町民の余暇利用を推進する。				
内容	遊休・荒廃農地を解消し、農地の保全に努める				
根拠法令・条例等	農地法				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	現状、精査して来た中での事業であるため。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	補助制度を見直し、より現状に即した制度になるよう検討する				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)					A
	【説明】	新たな担い手確保や、オリーブ事業との連動を考慮しめながら事業推進に努めて行く				

総合評価

実績	H25末面積(431,806㎡)+H26新規面積(38,118㎡)=H26末面積(469,924㎡) 農地の賃貸借等により、2,261㎡解消				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	遊休・荒廃農地解消面積				
前期(27年度)目標値	0.8ha			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度の解消面積より	
	0.3ha	0.8ha			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		141	102	262	77		
財源内訳	一般財源	122	102	262	77		
	国庫支出金						
	県支出金	19					
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 法定業務のため	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 法定業務のため	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 遊休・荒廃農地を把握し、解消を促すことができた	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 解消に要する費用を補助しているが、有効に活用されている	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 補助金等を活用し、遊休・荒廃農地を新規就農者に斡旋することで解消につながることができた	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	解消困難な遊休農地の取り扱い	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	遊休荒廃農地の解消に向け、引き続き事業を継続する必要がある。		
今後の方向性	引き続き推進する。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	産業振興課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(5)特産品の普及と二宮ブランドとの連携
実施計画事業	特産物普及奨励事業(No.55)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	特産物普及奨励事業(農業再生事業)	76.0%	B
02			
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリーブ栽培について、農家主体による推進への移行 ・オリーブ栽培農家の技術の向上、確立 		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	平成26年6月には、オリーブの栽培農家による園芸協会オリーブ部会が発足しました。また、同年8月に近隣市町と連携して、生産者、流通、加工業者をメンバーとしたオリーブ振興協議会も立ち上がり、オリーブ推進するための体制が整いました。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	オリーブ栽培農家の技術の向上、確立を目指しつつ、オリーブオイル、オリーブの実の加工など、今後の方向性を検討する。 同時に、行政主導から生産者が主体になるように促していく。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	農業再生事業の一環として、湘南オリーブの地域ブランド化を目指し、栽培の拡大と推進組織を支援するうえで、事業継続は必要である。		

		担当部課等名	産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化				
分野別方針	(5)特産品の普及と二宮ブランドとの連携		実施計画事業	特産物普及奨励事業(No.55)				
予算等事業名	特産物普及奨励事業(農業再生事業)							
目的	二宮の特産物の普及を図る。							
内容	二宮の特産物である、湘南ゴールド、落花生等の普及を図る。							
根拠法令・条例等	二宮町特産物普及奨励補助金交付要綱							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由	落花生の普及奨励に遅れが出ている				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	オリーブの普及奨励について、経験も浅く、研究を重ねる必要があるため				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	事業年数が浅い取り組みについては、より効率化を図れるよう検討していく				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)					B
	【説明】	オリーブの調査、研究に努めるとともに計画的に栽培規模拡大を目指して行く。 伝統的特産品である落花生栽培の現状維持に努めて行く。				

総合評価

実績	特産物普及奨励事業補助金(落花生、オリーブ)				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)	特産物普及奨励事業補助金(落花生、オリーブ)申請件数				
前期(27年度)目標値	①落花生普及奨励補助金 生産奨励:6件/出荷奨励: 6件		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
単位:	②オリーブ普及奨励補助本数:300本		落花生普及奨励補助金:申請実績値より(現状維持) オリーブ:農業所得年次計画より		
	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
実績値	①落花生普及奨励補助金 生産:4件/出荷:4件	①生産:16件/出荷:16件②普及 奨励:342本			
	②オリーブ普及奨励:74本				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,780	2,146	2,292	1,742		
財源内訳	一般財源	2,780	1,946	2,092	1,541		
	国庫支出金						
	県支出金		200	200	200		
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	B
	【説明】 特産物に付加価値を付けた商品づくりを行い、二宮ブランド事業に取り組むため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 特産物に付加価値を付けた商品づくりを行い、二宮ブランド事業に取り組むため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 落花生種子及びオリーブ苗木の普及数という側面から一定の成果は出ている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 オリーブ苗木の農業者への配布等、町が実施している目に見えない経費について改善が必要。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 落花生種子及びオリーブ苗木の普及数としては一定の成果が出ているものの、今後は出荷、加工を啓発する側面から成果を出す必要がある。	
今後の方針(課題・意見等を箇条書き)	落花生種子及びオリーブ苗木の普及数という側面から一定の成果は出ているものの、今後は栽培の側面でも成果を出す必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	遊休荒廃農地を解消するため、オリーブ栽培の普及を継続して推進していく。		
今後の方向性	生産者間の情報共有、連携を深め、主体的にオリーブ栽培を推進するよう、町がサポートしていく。		

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	産業振興課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(6)魅力ある二宮ブランドづくりの推進
実施計画事業	二宮ブランド推進事業(No.56)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	二宮ブランド推進事業	100.0%	B
02			
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・二宮ブランドの認知度の向上 ・二宮ブランドのグレードアップ 		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	二宮ブランド認定品の周知を高めるために各種イベントに出向き販売しているものの、町民の認知度があまり向上していない。 また、既存の認定ブランドのブラッシュアップも必要である。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	ブランド事業を商工会が推進することによって県補助金など特定財源を確保できるため、平成27年度より、町商工会が二宮ブランド事業の実施主体になり、町は支援する形に変更する。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	二宮ブランドの推進は、商業活性化を図るうえで、個々の商品の魅力度を高め、事業者・商工会が積極的に販売促進のPRを強化実施していくものとする。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2. 「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(6) 魅力ある二宮ブランドづくりの推進		実施計画事業	二宮ブランド推進事業 (No.56)
予算等事業名	二宮ブランド推進事業			
目的	町内中小企業の健全な育成振興を目的とし、町商工会を始め、各商店の機能が十分発揮されるよう組織の育成・強化を図る。			
内容	町内中小企業の健全な育成振興を目的とし、町商工会を始め、各商店の機能が十分発揮されるよう組織の育成・強化を図る。			
根拠法令・条例等	—			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		80周年事業の実施		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		認定事業者への主体及び費用負担の移行を継続的に打診していく必要がある		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			B
	【説明】 認定事業者への事業主体及び費用負担の移行を段階的に進めつつ、事業を継続する。			

総合評価

実績	二宮ブランド推進協議会の開催(3回)、認定事業者打合せ会の開催(3回)、第6期認定(1品目)、町内外における催事販売(8回)、認定商品のブラッシュアップ(1品目)			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	二宮ブランド推進協議会開催回数			
前期(27年度)目標値	4回			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	過去の開催実績
	4回	3回		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,764	3,764	1,800	1,800		
財源内訳	一般財源			1,800	1,800		
	国庫支出金						
	県支出金	3,764	3,764				
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 当事業は、町の商工・観光振興と町そのもののブランド化につながる事業であるため、公費の投入は妥当と考える。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 事業主体は商工会や事業者へシフトしつつも、一次産業や観光との連携の側面から、町の関与は必要である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 二宮町らしさを表現できるツールとして、素材が整ってきている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 事業ボリュームから考えれば、費用はそれほど高額ではない。また、ブランド認定シールについては、次年度より事業者自らの負担が決定した。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 町のブランド化を目指し、継続的な取り組みは必要だが、事業主体の事業者への更なるシフトと、受益者でもある事業者からの負担導入をさらに進めていく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	町民への認知度を更に高めていくため、町の様々な場でブランド商品等が取り上げられるよう、横の連携も図っていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input checked="" type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	ブランド認定事業者の自主性を促し、商工会が中心となって運営することが望ましい。また、商工会が主体的になり広域と連携して事業展開すると交付金などの財源を確保できる。
今後の方向性	ブランド推進事業は、認定品目が50近くまで達し、事業主体を商工会の自主運営に移行していく。

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	企画政策課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	2.「二宮ブランド」の開発と活性化
分野別方針	(6)魅力ある二宮ブランドづくりの推進
実施計画事業	1)産業活性化推進事業(No.57)

	予算事業名	事業費 執行率(%)	総合評価
01	産業活性化への取組み検討	—	C
02			
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	・関係各課による調整		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	中小企業者や農林水産業などの地場産業と町が連携しながら、相互の特徴を活かした観光資源を創出することにより町の魅力づくりを進めるためには、自主的な取組が重要になる。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	観光協会や商工会など、既存の枠組みを活かした発展形により事業が推進できるよう検討を進める。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	現状を踏まえ、町のかかわり方の再検証が必要である。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	企画政策課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2. 「二宮ブランド」の開発と活性化				
分野別方針	(6) 魅力ある二宮ブランドづくりの推進		実施計画事業	1) 産業活性化推進事業 (No.57)				
予算等事業名	産業活性化への取組み検討							
目的	町内の農業、漁業、商工業等と町民が産業活性化に向けた連携を図るために必要な検討を推進する。							
内容	町内の産業活性化に向けて、関係各課と調整を行い、町内関係団体との意見交換の実施に向け検討を行う。							
根拠法令・条例等	-							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由		必要性も含め、事業実施方法等を検討する必要がある			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由		※予算措置無し			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由		※必要性を含めて検討が必要となるため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 必要性も含め、事業実施方法等を検討する必要がある				

総合評価

実績	なし				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	検討回数				
前期(27年度)目標値	2回			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
	単位:				
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	0回	0回			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0	0	0		
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	—
	【説明】	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	C
	【説明】 既存組織等の活用による実効性のある仕組みが必要である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	C
	【説明】 検討が未実施であるため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	—
	【説明】	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	C
	【説明】 必要性も含め、事業実施方法等を検討する必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	・関係各課による調整	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	中小企業者や農林水産業などの地場産業と町が連携しながら、相互の特徴を活かした観光資源を創出することにより町の魅力づくりを進めるためには、自主的な取組が重要になる。
今後の方向性	観光協会や商工会など、既存の枠組みを活かした発展形により事業が推進できるよう検討を進める。

平成 27 年度 事務事業評価シート

担当部課等名	産業振興課
基本構想	戦略的行政運営
重点の方針	2. 総合計画に基づいた政策マネジメントの推進
分野別方針	(1) 農・海・里山のあるまちづくり
実施計画事業	1) 「農」のある暮らし推進事業 (No.86)

	予算事業名	事業費 執行率 (%)	総合評価
01	ふれあい農園事業	94.0%	B
02	里山再生育成事業	98.7%	B
03			
04			
05			
課題 (箇条書き)	・ふれあい農園の維持管理と利用料との乖離		

総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	説明	ふれあい農園の設置や里山が荒れないよう管理を行うことは、遊休荒廃農地対策の一助ともなるため、継続して事業推進を行う。

方向性			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	平成27年から、ふれあい農園の利用更新があり、受益者負担の見直しを行い、借地料などの経費と農園利用料とが同額程度になるように変更を行う予定。		

◎評価者[担当主管部長]			
<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
意見等	農地の荒廃地化防止と町民の余暇利用を推進する観点から、事業継続は必要である。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課	
基本構想	戦略的行政運営		重点的方針	2. 総合計画に基づいた政策マネジメントの推進
分野別方針	(1) 農・海・里山のあるまちづくり		実施計画事業	1) 「農」のある暮らし推進事業 (No.86)
予算等事業名	ふれあい農園事業			
目的	農地の荒廃地化防止や里山保全を推進するため、町民の余暇利用やボランティア活動などを通じて、ふれあい農園事業や里山再生育成事業を展開する。			
内容	農地の荒廃地化の防止と町民の余暇利用を推進する。			
根拠法令・条例等	特定農地貸付法			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		現状、精査を繰り返して来た中での事業であるため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		定期更新(5年おき)から毎年度更新への制度変更を検討する		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			B
	【説明】 従来制度の見直しを図り、より、効率の良い事業推進に努めて行く			

総合評価

実績	定数を満たしている。			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	農園利用者数			
前期(27年度)目標値	106区画(H27より区画改訂)		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	ふれあい農園区画数
	123区画	123区画		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		243	243	717	674		
財源内訳	一般財源	71	66	545	515		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	172	177	172	159		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 町民の余暇活動の充実と耕作放棄地対策のため	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 町民の余暇活動の充実と耕作放棄地対策のため	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 利用区画もほぼ定数を満たしている	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	B
	【説明】 受益者負担により借地料を賄っているが維持管理費等の負担までいたっていない。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 受益者負担により借地料を賄っているが維持管理費等の負担までいたっていない。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	維持管理費等も含め受益者負担を求めて行く。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	荒廃農地対策の一助となっており、継続して事業推進する。		
今後の方向性	定住促進の一環として、ふれあい農園事業を充実について検討していく。		

平成 27 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	産業振興課					
基本構想	戦略的行政運営		重点的方針	2. 総合計画に基づいた政策マネジメントの推進				
分野別方針	(1) 農・海・里山のあるまちづくり		実施計画事業	1) 「農」のある暮らし推進事業 (No.86)				
予算等事業名	里山再生育成事業							
目的	農地の荒廃地化防止や里山保全を推進するため、町民の余暇利用やボランティア活動などを通じて、ふれあい農園事業や里山再生育成事業を展開する。							
内容	山林所有者の協力を得て、学校教育活動やボランティア活動による里山体験を促進し、里山の再生育成を図る。							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		現状、精査を繰り返した中での事業であるため						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		団体への全委託を打診したが不調となった経緯がある。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)						
	【説明】	引き続き、団体と調整を図りながら効率の良い事業推進に努めて行く					

総合評価

実績	—						
中間評価との相違点	—						
事業指標(数値指標)	里山体験者数						
前期(27年度)目標値	180人			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	近年の実績より			
	181人	200人					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		253	245	705	696		
財源内訳	一般財源	223	219	675	669		
	国庫支出金						
	県支出金			30	27		
	その他	30	26				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	B
	【説明】 町民の余暇活動の充実と里山保全推進のため	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 町民の余暇活動の充実と里山保全推進のため	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 地域限定ではあるが、里山保全について団体が主体的に取り組んでいる	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	B
	【説明】 里山関係団体がより、自主的に活動できるようにしていく必要がある。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 里山関係団体がより、自主的に活動できるようにしていく必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	里山関係団体がより、自主的に活動できるようにしていく必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	里山保全を推進していくために必要な事業である。		
今後の方向性	引き続き推進するが、団体の自主性を促していく。		